

ONCC 12期生 江戸時代にタイムスリップ科

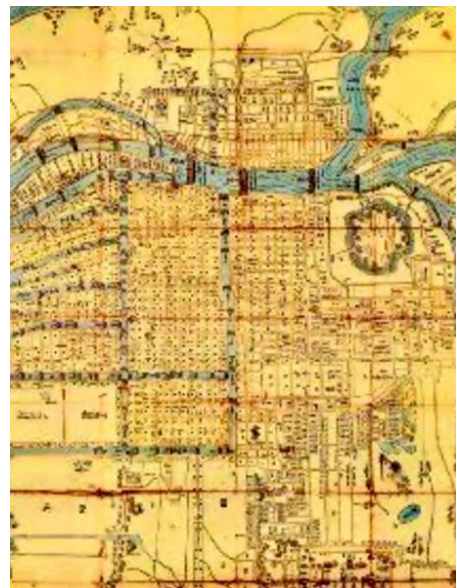
5月9日(木)

大阪くらしの今昔館見学「天神橋6丁目」

午前中深田智恵子学芸員の講義「江戸時代の大坂の町と町家くらし」を受け、天神橋6丁目にある大阪くらしの今昔館を見学しました。

○江戸時代の大坂

大坂は江戸時代に「天下の台所」と呼ばれ明治時代にかけて商業都市として発展しました。その背景には周辺地域で作物の生産がさかんであったことや、京都・奈良の都が近く、淀川が中心部まで流れ込み水運に恵まれ発達した事もあります。



○10階展望フロアは江戸時代の町並みを一望

人間国宝で落語家の桂米朝による解説を聞きながら、江戸時代の大坂の町並みを一望出来ました。



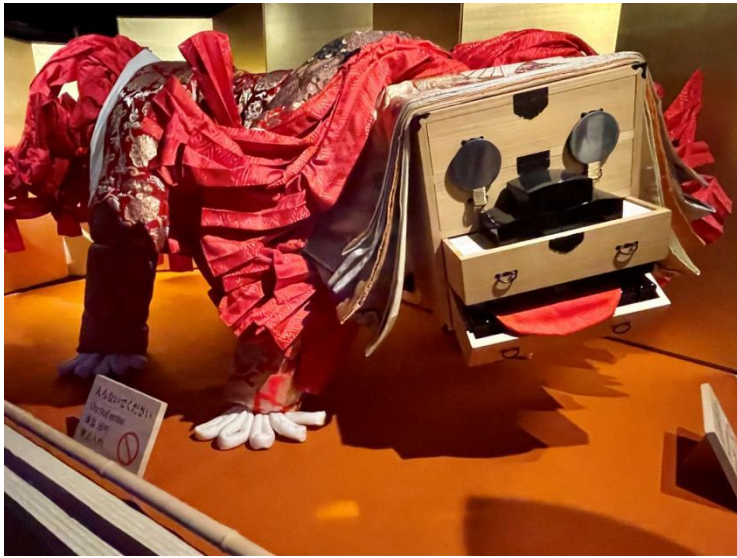
軒を並べる町家、ひときわ高い火の見櫓、木造立ちが多く火事が恐れられ石造りの用水桶も備わっていました。

○9 階実物大の 1830 年代(天保年間)の大坂町三丁目の町並み

光と音で町家の1日が演出され、旧暦 6 月は祭月で通りには幔幕や提灯が並び地車の曳行、天神祭りの花火で賑わってる様相です。



町家の店の間には華麗な屏風や趣向を凝らした「造り物」が飾られ町行く人の目を楽しませてくれます。



獅子

嫁入り道具一式の造り物、箆笥を獅子頭とし手鏡を目に見立てています。



お迎え人形雀踊



帯づくし宝船

○船形山車「天神丸」



天神丸は元禄年間(1688-1704)に造られ天神祭りには飾り立てて曳きだされてまいりましたが、寛永4年(1792)天満の大火で半焼、天満宮遷宮950年を祝う前年嘉永4年(1851)平野屋五兵衛が主に寄付を募り修復が始まり、明治11年(1878)の正遷宮には完成した「天神丸」が飾られたそうです。

ここで今日の見学は終了です。

大阪の「町人の町」の歴史、凄さを再認識する「大阪くらしの今昔館」でした。

(3班広報担当)